



参加者らは石を切り離す「起こし」を体験(28日、宇都宮市大谷町のKANEHONで)

宇都宮北西部の 魅力堪能ツアー

宇都宮市大谷地区で「地底湖クルージング」を手掛けるファーマーズ・フォレスト社(宇都宮市)が、同地区を含む市北西部の魅力を広めようと、地域密着型のツアーを今春から始める。特産の大谷石の採掘現場案内や温泉つきピクニックなど、工夫を凝らしたツアーを計画中で、28日にはモニターツアーの第一弾を開催した。「県都の埋もれた観光資源を掘り起こしたい」と意気込んでいる。

(江原桂都)

大谷石採掘体験など

ろまんちっく村運営の会社

モニターツアー第一弾

「五感喜ぶ石の里」大谷」には、市内外の男女20人が参加した。同社が市からの委託で運営する「道の駅うつのみや ろまんちっく村」を発着点とし、イチゴ狩り、民話と琵琶演奏の鑑賞、地元食材を駆使したグルメの堪能と、行程は盛りだくさん。とりわけ参加者を喜ばせたのが採掘場の見学だった。

訪れたのは石材業「KANEHON」の採掘場。地下採掘が主流の大谷地区にあって、地上で掘る「露天掘り」の珍しい現場だ。参加者たちは、採掘から商品化までの全工程をつぶさに見学し、実際にハンマーも振った。半年前に札幌市から宇都宮市に引っ越してきた北園晴美さん(41)は、「宇都宮に、こんな魅力があるなんて初めて知った」と興奮気味だった。

ファーマーズ・フォレス

NEHON」の採掘場。地

ト社は、異業種3社と大谷石の地下採石場跡地を活用した「地底湖クルージング」を仕掛け、今年から旅行事業に本格的に乗り出した。事業名は「えにしトラベル」。2月もモニターツアーを続け、リンゴやキノコを収穫する「ローカルフードを体験する旅」、温泉につかり遺跡を訪ねる「ノルディック・ピクニック」など4種類のツアーで参加者のニーズを探る。

同社の石崎美映子さんは、「地域活性化に役立つ旅を手がけたい」と、大手旅行会社から転籍してツアーの企画を担当。「当面は、人工美と自然美が共存する宇都宮の北西部に狙いを絞り、将来的には全県を網羅した事業に拡大したい」と話す。問い合わせは同社(028・665・8800)、または「えにしトラベル」の公式ホームページで。